

講義・演習概要（シラバス）

第1部課程第121期（平成25年10月24日～平成26年3月18日）

課 目 名	自治体職員とメディア・リテラシー
時 限 数	2時限
担 当 講 師	成蹊大学文学部教授 見城 武秀 ＜プロフィール＞ 専門はコミュニケーション論、メディア論。「メディア・リテラシー」という概念に注目しながら、メディアと社会とが相互に影響をあたえつつ変容していく過程について研究している。
ね ら い	2009年、岐阜県庁の「裏金疑惑」をめぐる『真相報道バンキシャ！』の誤報問題が世間を賑わせ、事態は日本テレビ社長の引責辞任にまで至りました。本講義では、この事件を振り返りながら、近年注目を浴びている「メディア・リテラシー」という考え方を理解することを目指します。
講 義 概 要	（１）日本テレビ『バンキシャ』誤報問題についての解説。 （２）メディア・リテラシーという考え方についての概説。 （３）メディアの役割は現実を「反映」することだと考えるメディア観と、メディアの役割は現実を「構成」することだと考えるメディア観とでは、「メディアに対する批判性」のとらえ方が大きく異なることを解説。 （４）「反映主義的メディア観」を相対化することの重要性を説明。
受講上の注意	実際のテレビ番組など、受講者の皆さんにとって身近な素材を使いながらメディア・リテラシーという考え方のエッセンスをお話ししていきます。かしこまらず、気楽に受講していただければ幸いです。
使 用 教 材	配布プリントや当日視聴するDVD
効 果 測 定	受講後にテレビや新聞と接する中で、「何となくメディアに対する見方が変わったな」と思う機会が少しでもあれば、講義の理解は十分だったと言えます。
そ の 他 (他の課目との関連)	なし